

濱之瀬組 「音頭」の歌詞

濱之瀬組では、歌の呼び名として「音頭」を用いていたので、タイトルの表記を「音頭」としている。

ここに示す歌詞は、調査の際に「得意な歌」「グループ独自の歌」「雰囲気を考えて歌う歌」などと依頼して、歌われた歌の歌詞である。

『伊勢音頭調査報告書』の中の「御坊祭の〈伊勢音頭〉」（以下、「報告書本文」）では、歌われた歌詞の「歌い出し」を記すことで表7にまとめ、歌詞の概観を行った。表7では、歌のふしの種類によって、「短い歌」「長い歌（紀小竹組にのみ「ながうた」という独自の呼び名がある）」「つなぎ歌（引き継ぎ歌、受け取り歌）」をまとめて示したが、ここでは、収録の際の歌われた順に示している。（歌のふしの種類については、「報告書本文Ⅱの表3」参照）。

なお、表記は、歌詞は黒字で、囃しことばは、音頭取りを赤字で、乗り子を青字で行っている。

歌詞のみ（囃し無）

◎歌い手（昭和 39 年生）

短い歌：祝い目出たの 若松さまは 枝も栄ゆりゃ 葉もしゆげる

短い歌：濱の若い衆ら ねばそうじゃないか 年に一度の 秋祭り

長い歌：紀州日高の 濱之瀬の祭り 鶴が上より舞下がり 亀が下からはい上がる 鶴が歌えば亀が舞う 亀が歌えば鶴が舞う 沖の七福喜んで 大判小判を積み揃え ややや緞子のごをまいて おいて出るのは 濱之瀬沖よ

◎歌い手（昭和 58 年生）

短い歌：泣くななげくな 潮さえよけりゃ 小判千両は 朝の間に

短い歌：入れておくれよ かゆくてならぬ 私一人が 蚊帳の外

短い歌：締めて頂戴 もう行きそうだ 猫が戸棚の ととねらう

～～～

◎歌い手（昭和 60 年生）

短い歌：岬かわれば 濱之瀬一目 なぜに御坊は 松の陰

短い歌：日高河口（かわぐち）に どんと打つ波は 若い船頭さんの 度胸試し

短い歌：恋にこがれて 鳴く蝉よりも 鳴かぬ螢が 身をこがす

◎歌い手（平成元年生）

短い歌：鯉の瀧昇り 何と言うて登る お水恋しゅうと 言うて昇る

短い歌：お伊勢詣りに この子が出来て お名を付けましょ 伊勢松と

長い歌：火事と喧嘩は お江戸の華だ あまた火消しのある中で 野狐三次は纏持ち
背には白狐の入れ墨を 入れた入れ墨 男伊達

◎歌い手（昭和 60 年生）

短い歌：さんしゃ押せ押せ 下関までも 押せば港が 近くなる

短い歌：沖のカモメに 潮時間けば わたしゃたつ鳥 波に聞け

短い歌：とろりとろりと 回るは淀の 淀の川瀬の 水車

歌詞（囃し有）

◎歌い手（昭和 39 年生）

ヨーイヤッサ
ヨーイヤッサ
ソラヤートコセ エエヨーイヤナ
ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイ 祝い目出たのヨ ヨンヨイ アー若松ヨーさまはヨ サーヨーイセーコラセ
ホリヤ 枝も栄ゆりゃヨーレナイ 葉もしゅげるヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ
ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイ 濱の若い衆ら ヨンヨイ アーねばそうじゃヨーないかヨ サーヨーイセーコラセ
ホリヤ 年に一度のヨーレナイ 秋祭りヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ
ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイ 紀州日高のヨ ヨンヨイ アー濱之瀬の祭りヨ サーヨーイセーコラセ
ソレー 鶴が上より舞下がり ソレ 亀が下からは上がる ソレ 鶴が歌えば亀が舞う
ソレ 亀が歌えば鶴が舞う ソレ 沖の七福喜んで ソレ 大判小判を積み揃え ソレ
ややや緞子のごをまいて ソレ おいて出るのはヨーイソリヤ 濱之瀬沖よ ソラヤ
ートコセ エエヨーイヤナ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

◎歌い手（昭和 58 年生）

サーヨーイ 泣くななげくなヨ ヨンヨイ アー潮さえヨーよけりゃヨ サーヨーイセーコラセ
ホリヤ 小判千両はヨーイナエ 朝の間にヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ
ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイ 入れておくれよ ヨンヨイ アーかゆくてヨーならぬヨ サーヨーイセーコラセ
ホリヤ 私一人がヨーイナエ 蚊帳の外ヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ
ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイ 締めて頂戴ヨ ヨンヨイ アーもう行きそうだヨ サーヨーイセーコラセ
ホリヤ 猫が戸棚のヨーイナエ ととねらうヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ
ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

～～～

◎歌い手（昭和 60 年生）

ヨーイヤッサ ヨーイヤッサ ヨーイヤッサ
ソラヤートコセ エエヨーイヤナ
ハリバンヨーイ コレバンヨイ
ソラヨーイートセ

サーヨーイ岬かわればヨ ヨンヨイ アー濱之瀬ヨ一目ヨ サーヨーイセイコラセ
ホリヤなぜに御坊はヨーイソリヤ 松の陰ヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ ハ
リバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイ日高河口（かわぐち）に ヨンヨイ アーどんと打つ波はヨ サーヨーイセイ
コラセ ホリヤ若い船頭さんのヨーイソリヤ 度胸試しヨ ソラヤートコセ エエ
ヨーイヤナ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイ恋にこがれてヨ ヨンヨイ アー鳴く蟬ヨーよりもヨ サーヨーイセイコ
ラセ ホリヤ鳴かぬ螢がヨーイソリヤ 身をこがすヨ ソラヤートコセ エエヨーイ
ヤナ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

◎歌い手（平成元年生）

サーヨーイ鯉の瀧昇り ヨンヨイ アー何と言うて登るヨ サーヨーイセイコラセ
ホリヤお水恋しゅうとヨーイソリヤ 言うて昇るヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ
ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイお伊勢詣りにヨ ヨンヨイ アーこの子がヨー出来てヨ サーヨーイセイコ
ラセ ホリヤお名を付けましょヨーイソリヤ 伊勢松とヨ ソラヤートコセ エエヨー
イヤナ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイ火事と喧嘩はヨ ヨンヨイ アーお江戸のヨー華だヨ サーヨーイセイコ
ラセ ホリヤあまた火消しのある中で ソレ 野狐三次は纏持ち ソレ 背には白狐の
入れ墨を ソレ 入れたナーエ入れ墨ヨーイソリヤ 男伊達ヨ ソラヤートコセ エエ
ヨーイヤナ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

◎歌い手（昭和 60 年生）

サーヨーイさんしゃ押せ押せヨ ヨンヨイ アー下関までもヨ サーヨーイセイコラ
セ ホリヤ押せば港がヨーイソリヤ 近くなるヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ
ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイ沖のカモメにヨ ヨンヨイ アー潮時ヨー聞けばヨ サーヨーイセイコラ

セ ホリヤわたしやたつ鳥ヨーイソリヤ 波に聞けヨ ソラヤートコセ エエヨーイ
ヤナ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイとろりとろりとヨ ヨンヨイ アー回るはヨ一淀のヨ サーヨーイセーコ
ラセ ホリヤ淀の川瀬のヨーイソリヤ 水車ヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ
ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

ヨーイヤッサ

ヨーイヤッサ